

1. 普通鋼鋼材の在庫状況見通し (全国市中数量調査の自社所有分による)

* 上段は前期比在庫増減、中段 [] は在庫水準、下段 () は在庫水準前期比 (%) (自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字 () 内は誤差率=予想値÷実績

令和元年8月末	令和元年11月末	令和2年2月見通し	令和2年5月見通し
-25千トン [2300千トン] (96.8%)	-25千トン [2287千トン] (99.4%)	+53千トン [2340千トン] (102.3%)	+30千トン [2370千トン] (101.3%)
2350千トン(102.1)	2289千トン(99.9)	*	*

2. 前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

令和元年9月末	令和元年12月末	令和2年3月見通し	令和2年6月見通し
鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は 89,100 円で前年比+400 円、前期比-1,200 円。市中在庫の過多の状況が続いており、思ったほど在庫が減少しなかった。市況は弱含みだが、なんとか維持。流通の採算悪化が悪化。8月は夏休みムードに陥ったことにより全体的に落ち込んだ。9月に入っても需要は落ち着いており、消費増税の駆け込み需要も全くなかった。	鉄筋、H形鋼、C形鋼の平均市況は 88,600 円で前年比-1,700 円、前期比-500 円。秋需の気配は多少感じられたが、昨年のような秋需の盛上がりはなかった。土木関連で多少動きが見られたものの大型物件が少なく、建築は端境期で低調であった。流通は需要の盛上りがないため仕入を抑えたが在庫の過剰感はぬぐい切れなかった。	需給にタイト感のない状況が続く中、新型コロナウイルス感染拡大の影響により更に環境が悪化している。建築分野では着工遅れや中止、見合わせといった案件も見受けられる。土木分野では3月に入り若干落ちてきており指値も厳しくなっている。製造業関連の需要も減少傾向。1~3月は一般的に低調な販売が続いていることに加え、価格が弱含んでいることから月を追うごとに採算が悪化する悪循環となっている。	新型コロナウイルスの感染拡大が経済に大きな影響を与えているなか、今後も収束が見えなければ、更なる販売減、価格下落が予想され収益状況は更に悪化し我々流通の経営は深刻化するだろう。先行きの需要も不透明のため厳しい環境下で信用不安も増大してくる。現況から考えると良くなる需要分野は見当たらず、今後も多くの需要を望めないことから、当分は我慢の商売を強いられそうである。

3. 在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

全鉄連流通動態調査1月結果によれば、1月の仕入量は 166,696 トン前月比-7.4%、前年同月比-10.3%、販売量は 164,635 トン前月比-3.9%、前年同月比-6.0%。仕入販売ともに前月比減少、前年同月比では仕入量は著減し、販売量は減少しました。在庫量は 241,447 トン前月比+0.9%、前年同月比+3.5%、在庫は前月比微増、前年同月比増加しました。在庫率は 146.7 ポイントと先月より更に上昇しました。

例年1月は端境期で需要が落ち込む時期だが、今年はそれ以上に荷動きがペースダウンしている。仕入量をかなり抑えているにもかかわらず、販売減で在庫量は微増となった。今後も流通における在庫抑制の姿勢は変わらないだろう。

4. 大阪の動向

(大阪) 1月中頃よりスクラップの下落傾向が始まって以降、需要家は様子見を決め込み、一方でメーカーの売腰は依然として強く、売手・買手の思惑は乖離したまま手詰まり状態の感じが続いている。各品種全般にわたり需要動向はパツとしていない。製造業向けは、需要動向の先行きが非常に厳しく、また新型肺炎コロナウイルス問題が長期化した場合、建築需要にも大きく影響してくる。サプライチェーンの破綻も懸念され、先行きが見通せない。従来インバウンド需要を取り込んでいた建設関係も、先行きが見通せなくなった。